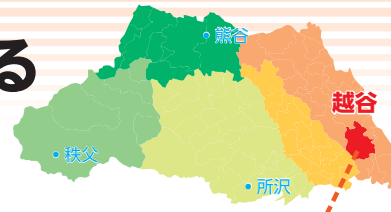


イチ押し

地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー⑮
越谷市 高橋 努 市長 (70歳)



「イチゴ農園団地のオープンなどで都市型農業を振興させたい」と話す高橋努市長

中核市を目指して

地域経済の活性化策を語る前に、まず当市のまちづくりについてお話しさせていただきます。私は市長就任以来、「安心度埼玉No.1の越谷」と「市民が誇れる越谷」を基本理念に、まちづくりを進めています。この基本理念を基に「第4次越谷市総合振興計画」をスタートさせ、今年で3年目に入りました。そして今、市民の皆様の参加と協働により、2015年4月の「中核市」移行に向けて取り組んでいるところです。越谷は、昔から県南東部の中核都市として発展してきましたが、名実ともに中核都市としてさらに発展していくため、現在の特例市から中核市へ移行することにしました。

政令指定都市並みの権限を持つ中核市になるためには、各種の要件を満たすことが必要ですが、中でも市立の保健所を設置することが欠かせません。6月の市議会で保健所建設工事の議案が可決されましたので、近く着手する予定ですが、約2,000項目の事務移

譲も伴うことで、多くの人材が必要となります。今後、職員の増員が必要になりますが、これまで以上に職員一丸となり、名実ともに兼ね備えた中核市に向けて、市民の皆さんが誇りを持てるまちづくりに取り組んでいきます。

ブランド認定の特産品が人気

さて、本題の地域経済の活性化策ですが、最近の日本経済を見渡すと、今年に入ってから回復の兆しを見せ始めました。しかし、地域経済を取り巻く環境は、雇用情勢を含め依然として、厳しい状況が続くものと考えています。地域産業の振興には雇用の促進が不可欠ですので、「産業雇用支援センター」を拠点に国や県と連携し、産業・雇用施策の推進に積極的に取り組んでいるところです。

産業振興で最も力を入れているのは「こしがやブランド認定制度」です。2011年度から産業の振興と市の知名度アップを図るために開始しました。市内で製造・加工された商品を公募のうえ認定し、販売を支援しており11年度に9品目、12年度は3品目、そして本年度は4品目を認定し、現在16品目になりました。特産の越谷ネギと宮内庁埼玉鴨場にちなんで考案された「こしがや鴨ネギ鍋」や、天皇家にも献上された「太郎兵衛もち」、越谷産イチゴを使用したお菓子などが人気ですね。全国どこからでも購入できるよう、昨年からはインターネット販売も始めました。

イチゴ農園団地の開設へ

イチゴに関して言えば、農業振興を図るため、2010年度から「都市型農業経営者育成支援事業」に取り組んでいます。この事業は、イチゴの栽培技術や観光農園経営に必要なノウハウを2年間で修得する研修制度で、卒業後に独立して観光農園を開設できるよう支援

するものです。昨年6月に第一期生が卒業し、3人すべてが就農という大きな成果を挙げることができました。また、この事業の効果で、市内に2カ所だったイチゴ観光農園が7カ所に増え、成果が目に見える形で現れています。

本年度からは、産地の形成や当市を代表する新たな観光資源とするため、「(仮称)越谷イチゴ農園団地」の整備にも着手していくことにしました。研修事業を実施している農業技術センター隣接地の約1.9ヘクタールの農地を市が借り受け、イチゴ栽培に必要なハウス8棟を設置する計画で、2015年1月のオープンを目指して整備を進めています。完成後、そのハウスを市内のイチゴ農家や研修卒業生に貸し出し、「都心から一番近い大きなイチゴ農園団地」としてPRしていく予定です。

観光振興で更なる賑わいを

観光を活用した地域経済の活性化で、もう一つ大きな期待を寄せているのが、2008年4月に街開きをしましたレイクタウン地区です。地区内には東京・上野にある不忍池の約3倍の広さ、約38.7ヘクタールの調節池があり、ボートやヨットなどの水上スポーツが楽しめます。そこで、来年3月の区画整理事業の完成とともに、水辺を活かした観光を図ろうと、その活用方法を考えていくことにしました。また、御存知とは思いますが、地区内には日本最大級のショッピングセンターとアウトレットがあり、現在年間で約5,200万人の買い物客が訪れています。この大勢の買い物客が市内を回遊し、さらにまちが賑わうような工夫をしていく必要があります。

越谷市の概要

人口(平成22年国勢調査)	326,313人
世帯数(同上)	128,264世帯
平均年齢(同上)	43.0歳
生産年齢人口比率(同上)	66.40%
面積(同上)	60.31平方キロメートル
名目市内総生産(平成22年度市町村民経済計算)	7,504億7,100万円
事業所数(平成22年工業統計)	465事業所
製造品出荷額等(同上)	2,132億2,012万円
事業所数(平成24年経済センサス速報)	11,968事業所
年間商品販売額(平成19年商業統計)	7,425億9,800万円

もう一つ、県の補助事業を活用し、2012年4月に市役所本庁舎東側に「葛西用水ウッドデッキ」をオープンしました。全長約120メートルのデッキですが、月2回の農産物の直売、夏にはビアガーデンとフラダンスイベント、クリスマスの時期にはイルミネーションなど季節ごとに様々な催しを開催しています。本年度はウッドデッキの延伸整備を行う予定で、まちなかの観光事業などに活用していきたいと思っています。

中心市街地の活性化に向けて

まちなか、いわゆる当市の中心市街地の活性化に向けては、本年3月に地域資源を活かした賑わいと魅力ある「越谷の顔」を創出するため、「中心市街地活性化基本計画」を策定しました。水郷越谷とともに、歴史や文化が息づく日光街道を拠点に、時間消費型の観光拠点として整備する中で、レイクタウンに訪れた客も呼び込み、歩いて楽しめる中心市街地の形成を目指し、各種事業を展開していく予定です。また、2011年10月に東武スカイツリーラインの蒲生駅近くに空き店舗対策として、高齢者や育児中の方などが憩える場の『「ふらっと」がもう』を開設しました。農産物や特産品の展示販売、歌声サロン、健康講座などを開き、年間約7,000人の市民の皆様が利用されています。こうした空き店舗対策を含め、魅力あるまちづくりを進め、市内外から多くの方々にお越し頂けるよう、中心市街地の活性化を推進したいと考えています。

これまで、市内事業者の意欲的な取り組みを積極的に支援していくため、商工会などと連携してきました。今後も、地元の金融機関や関係団体との連携強化を図り、地域経済を盛り上げていくつもりです。

次回はお隣、草加市の田中和明市長にボタンをタッチします。



市内にあるイチゴ農園。今後、ハウスの数を増やす計画でいる